

隣接タイパーの連続動作機会を減らすことは、意識にあったかどうかはともかく、実態は、減る方向、数字段と組み合わせた比較的高頻度の英文字の上段への配置も、それくさい、

• <http://kygaku.g.hatena.ne.jp/raycy/20100617/1276732741>

## 頻出連続文字列のタイパー隣接忌避を構造的制約条件の一つとみなす史観より

QWERTYの盲点、スタガー-staggered <http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/21a8a4d61b8c11eb657bf20aac524857>

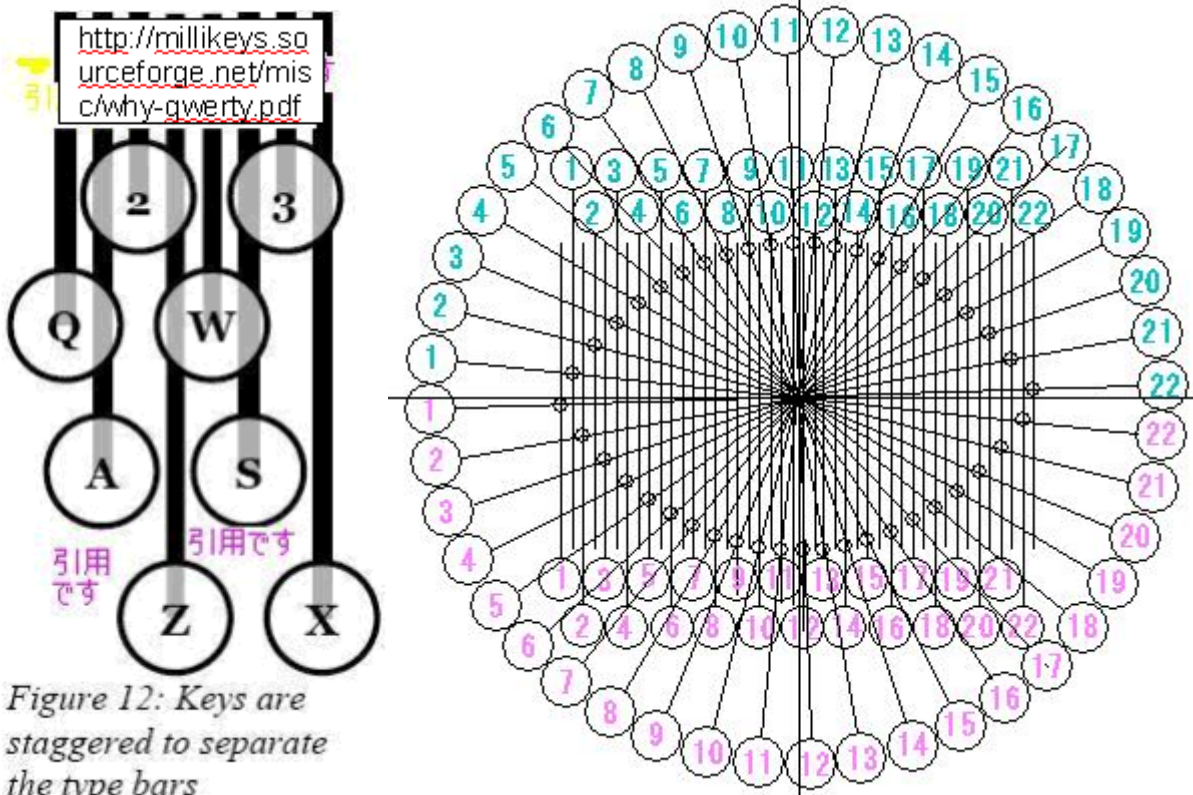
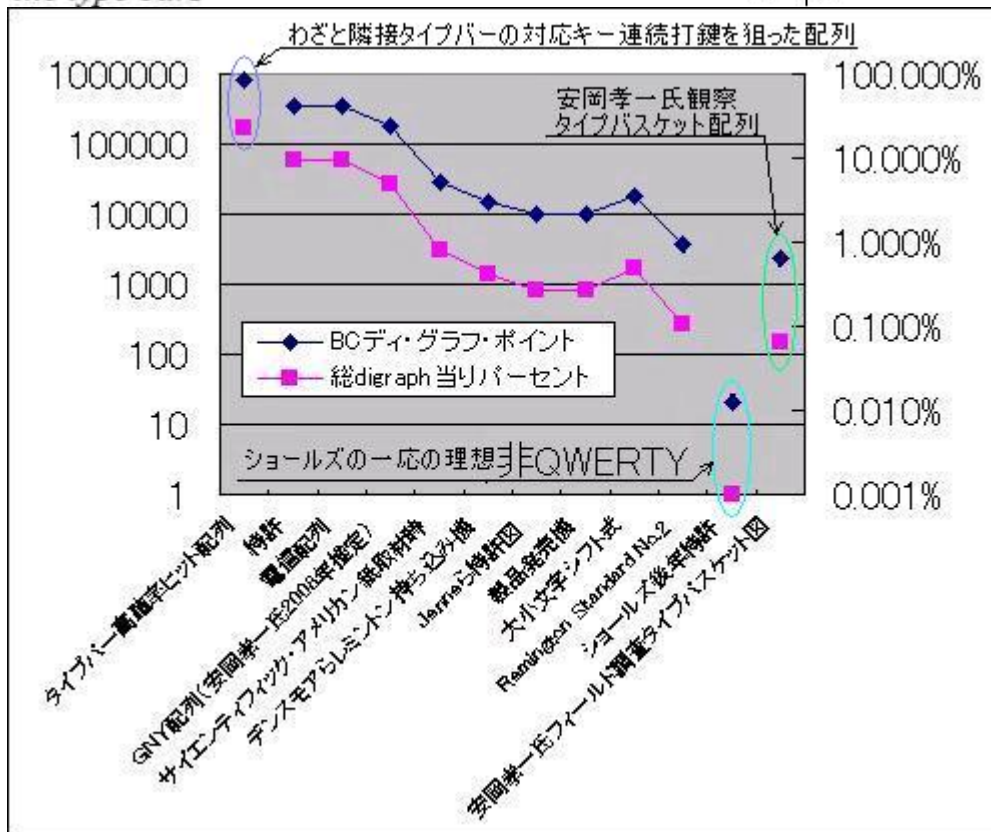


Figure 12: Keys are staggered to separate the type bars



タイパー原理タイプライターの「一つの制約条件として頻出連続文字列のタイパー隣接忌避があった説」を支持してくれそうな傾向が、少しは現れてきているように思えてきた。  
アップストライク式でも、フロントストライク式でも、

## タイパー & キー配列に関する「ディッカーソンの規則性」(理想形、アップストラ

## イク式編)

- ディッカーソンの「タイプバー & キー配列定石 (アップストライク式編)」は、与えられたタイプバー配置をもとに、ワイヤードライブでもっとも無理無駄ムラのないシンプルなつくりにしようとした場合に想定される、キー配列ということにもなる。そして、その逆方向の推量をしてみているのが、本試みであろう。
- あくまでも、一つの制約条件にすぎないのであって、この条件がつけられたからといって、絞られてきても配列の組み合わせ数は、まだまだたくさんあるということに、山田尚勇の説明ではなる。到底一つの配列に決まってしまうってな話ではもともとない。ではあるが、その機械的制約で切り捨てられた中に、よりよいものがあつたかもしれない。たとえばハモンド、ブリックケンスターファーなどではどうか。
  - もっとも、タイプホイール式にも、中心部に高頻度文字を集めざるを得ない、頻度エクセルギー則が効いているであろうが、タイプホイールの呪縛。

**「ディッカーソンの規律」をQWERTY系列配列に適用して得られたタイプバーの隣接状況データは、頻出連続文字組のタイプバスケット上タイプバーの隣接を減らす方向へ、おおむね推移していることを示しているようである。**

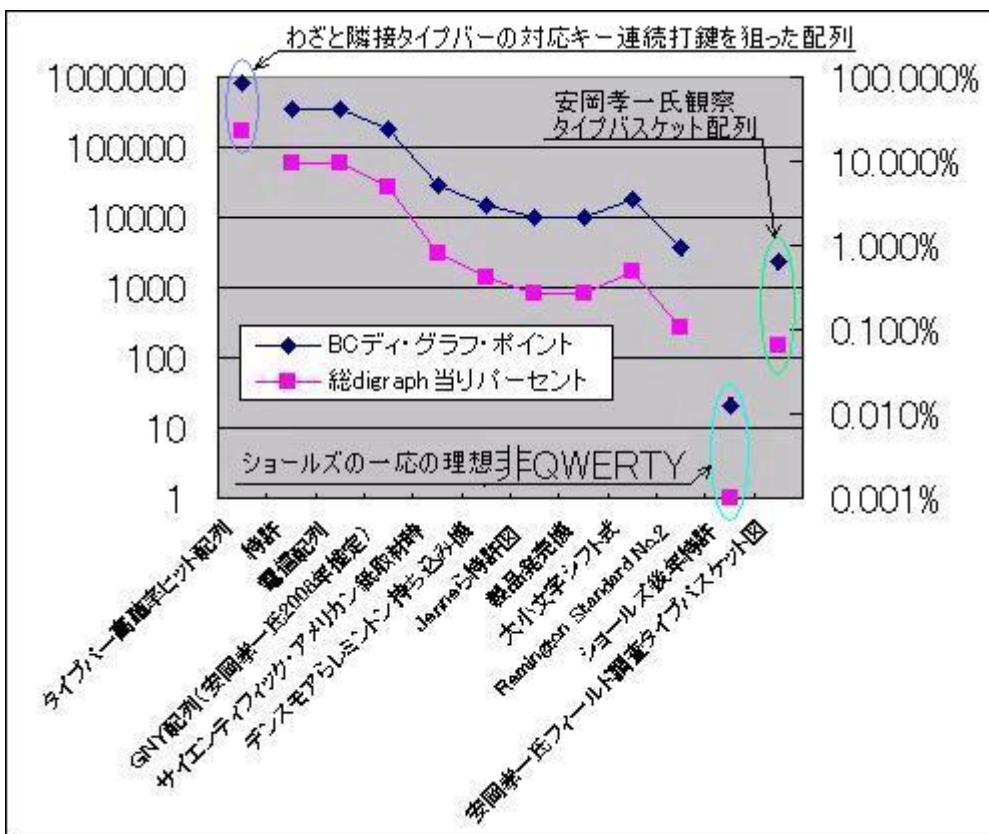
Re:特に1882年8月のキー配列変更は、Sholesの特許を忌避するためのもので、技術的な理由によるものではない、yasuoka (21275)より

タイプバスケット上のタイプバーの並びを、アップストライク式については「ディッカーソンの規則性」に準じてmy手元で適宜勝手に推定して、タイプバーの隣接状況を検討している。同じQWERTY系で実装機構、アップストライク式の場合には、

- Visibleへの移行は、復帰機構が充実してきたことと、隣接の条件が悪化しようとも、より大きなメリットが期待される「出力印字結果がすぐ『見える化』」の実現価値を重く見てのことであろう。
  - 「見える化」はまた、タイプバーが実際に絡む現場を直視せざるを得ない。これも、この敢えて虎穴にいるシステムの運用作法のしつけ躰へと、やむなく駆り立て仕向けられる、バイオ・ネガティブ・フィードバック回路を構成することにもなる。
  - そのうえ、見えるだけでなく、すぐに手が届き、絡みの現場を、直ちに解決解き放つことができる。

タイプバスケット上のタイプバーの配置を、製品機発売以前の分も製品機に準じて配置されていたと仮定して遡及し、隣接タイプバーのdigraphの具合を調べてみている。 <http://www26.atwiki.jp/raycy/pages/215.html> つまり、アップストライク式の場合の、タイプバスケット上のタイプバー配置とキー配列との関係が、「ディッカーソンの規則性」で配列されていると仮定して評価する。

## 隣接2タイプバー組の連続動作機会頻度 (「ディッカーソンの規則性」を適用したBCDP評価)



上掲図の再掲 <http://www26.atwiki.jp/raycy/pages/215.html>

時期など	説明	関係者	BCディ・ グラフ・ ポイント	総digraph 当りパー セント	<a href="#">ブラウン・コーパス順序なし 異字digraph頻度</a>
やらせ配列	タイプバー高確率 ヒット配列		838884	23.194%	<a href="http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/1a6a26bbbe45b6d2ec21be8da2fdc2a8">http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/1a6a26bbbe45b6d2ec21be8da2fdc2a8</a>
1868年 ごろ	特許	シヨールズら	342479	9.469%	
	電信配列		343677	9.502%	
	GNY配列(安岡孝一氏2008年推定)		180519	4.991%	<a href="http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/431798d4267a64f37e66ee3d0c42121a">http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/431798d4267a64f37e66ee3d0c42121a</a>
1872年 7月	サイエンティフィック・アメリカン紙取材時	シヨールズら	29534	0.817%	
1873年 2月	デンスモアラレミントン持ち込み機	シヨールズら	14994	0.415%	
1873年 9月	Jenneら特許図		9695	0.268%	
1874年 4月	製品発売機		9695	0.268%	
1878年 1月	大小文字シフト式	Jenneら	18186	0.503%	
1882年 8月	Remington Standard No.2		3756	0.104%	
1881-1896年	シヨールズの理想後年特許US Patent No.558428、568630、非QWERTY		671	0.0186%	<a href="http://slashdot.jp/~yasuoka/journal/377632">http://slashdot.jp/~yasuoka/journal/377632</a>
	安岡孝一氏フィールド調査タイプバスケッ図		2283	0.063%	<a href="http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/050008f57200f0efd56789f8ddd7e554">http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/050008f57200f0efd56789f8ddd7e554</a>

- ・ ブラウン・コーパス・ディ グラフ・ポイント (BCDP)
  - <http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/25f08e32b202090d31f6a4d9a164cfc9>
  - [ブラウン・コーパス順序なし異字digraph頻度](#)
    - <http://www26.atwiki.jp/raycy/pages/182.html> [atwiki.jp]
- ・ 頻出連続文字列タイプバー隣接忌避
  - <http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/440dd806177a6907c1c7d908825e5402>
- ・ キー配列-タイプバー配置強関係性説
  - [http://www26.atwiki.jp/raycy/pages/158.html#id\\_da15e560](http://www26.atwiki.jp/raycy/pages/158.html#id_da15e560)
- ・ ディッカーソンの規則性
  -